

審議会等会議録

審議会等の名称	平成18年度 第3回山口市環境審議会廃棄物埋立処理研究部会
開催日時	平成19年 2月23日(金曜日) 10:00 ~ 11:30
開催場所	山口市湯田公民館 2階研修室(山口市湯田温泉五丁目5番50号)
公開・部分公開の区分	公開
出席者	糸原義人(部会長)、遠藤克彦、浮田正夫、藤井逸夫 (4人)
欠席者	藤原勇 (1人)
事務局	環境部: 上野部長、坂理事、勝屋理事、益本部次長、増田室長補佐 環境保全課: 石津課長、山根主幹、田中主査、富永主査、杉山主事 ごみ減量推進課: 西村主幹 日本水工設計(株): 今井課長、宮崎主任 (13人)
議題	1. 埋立物による浸出水原水について 2. 山間部と臨海部に整備する場合の比較 3. 埋立物について 4. 環境審議会への中間報告結果について 5. その他
内容	I. 開会 II. 審議 1. 埋立物による浸出水原水について 配付資料に沿って事務局より説明の後、審議が行われた。 ■委員からの主な質問、意見等 ●資料中の図で、焼却残渣と不燃ごみのBOD(生物化学的酸素要求量)が15年目に突然下がっているのは、理由があるのか。 <事務局> 文献からの資料なので埋立開始から15年で下がる傾向が全般的にあるということはないと思うが、詳細は不明。 ●不燃ごみ主体(で有機物は少ないはず)なのに、初期にBOD値が高くなっており、なぜそうなるのだろうか。 <事務局> 資料中のデータの埋立物は、近年のように分別が徹底されてきた不燃物とは違う(缶とかびんの中に残っていた物が埋まっていた)のではないかと思う。 ●しばらく前のデータだと、資料のような高い数値になるのだろうが、今はごみの性状が変わってきているのではないか。これは古いデータだろうから今はまだ水質は良くなっているだろう。しかし水質変動の傾向を見ることは出来る。 ●重金属については、原則的には出てこないということで処理するが、ある最終

処分場の放流水から水銀が出てきたということもあった。何が原因か調べたが、特定することは出来なかった。原則的には、乾電池のような疑わしい物は埋立てしないということが必要だろう。

●破碎施設で破碎した不燃残渣は、(他の自治体等で) サンプルは貰えるのではないだろうか。重金属が私たちの気付かないところから出てくることを防ぐ意味で、それを溶出試験してみることも必要ではないか。

●場合によっては、大学などに(溶出試験を) 委託するというのも方法の一つかもしれない。

●これは、従来のオープン型処分場の浸出水のデータということだが、クローズド型を整備する場合は、浸出水もかなり変わってくる可能性もある。

〈事務局〉

破碎施設で破碎した不燃残渣からどのようなものが溶出するかということは、ある程度実験的に再現することは可能であると思う。従来型とクローズド型それぞれで実験条件を整えれば、ある程度のデータ検証は出来るだろう。実験に10年15年を費やすことは出来ないが、短期間であれ推移を見られるようなものは必要であると思う。最終報告案にも出てくるが、今後、山口市が計画するときには、(不燃残渣から溶出する物質を分析するのは) 部会委員の方々の御意見・御指導を踏まえながら計画を進めるうえでの大きな課題であると思う。

●水質が、水で連続抽出することによりどのように変化していくか、時間の経過は温度を上げることにより短縮するなどして推測することは可能であると思う。

●資料のデータは古く、現状と値は違うが、傾向的には参考になる。ただし、不測の事態が考えられるので、データ蓄積等を進めていくことも必要。実験については大学等と協力して行なっていくことも考えられる。

2. 山間部と臨海部に整備する場合の比較

配付資料に沿って事務局より説明の後、審議が行われた。

■委員からの主な質問、意見等

●一般的な比較だが、資料には臨海部での高潮災害などの記述も必要だろう。それと、山間部では平地掘削型や平地盛土型の場合は安定性がよいとあるが、これは山間部の場合このように整備するという事なのか。

〈事務局〉

山間部というカテゴリーの中に平地部も一部概念的には入れており、平地掘削型や平地盛土型を書いているが、臨海部、海面部との比較ということで山間部ということで表現している。

●現実的には山口市の場合は、谷間か臨海部しかないだろう。海面を新たに埋立るとすることも考えられない。一般的な平地ということはないだろうと思うので、そこら辺は絞られた方が良くもしいない。跡地利用も、山間部が良いように見えるが、臨海部でも工夫すれば良い土地利用方法もあるのではないかと思う。

●山口市として山間部、臨海部など予定地は決まっていないが、山間部と臨海部に整備する場合のメリット、デメリットをもう少し記載する必要があるように思う。

●今、海岸の基準も見直されて、山の中と同様に河川の基準も見直されて、100年に1回の降雨が何時くるか分からないという考えでやっているの、作る時はかなり考える必要があると思う。近くで大きな物を作ってコストをかけるのではなくて、ある程度コストがかからないところで作るということも大事なので、頭に置いて考えた方が良く思う。

●最近の異常気象を見ると、考えられない大雨がある日突然降ってしまうこともある。

●搬入の交通量なども考える必要もあるのではないだろうか。

●この前計算したら処分場への搬入はそんなに多くなかったと思う。1日にどれくらいとはっきりしておもてへ出せば良いと思う。

〈事務局〉

1日の搬入台数は5、6台ぐらいの予定。

●難しいのは、場所がある程度決まっていれば、搬入の交通に関しては重要な事項になると思う。市街地を通る場合と山間部を通る場合では全然違う。一般的には台数が少ないと影響が少ないと言えるが、台数が少ないから良いということは必ずしも言えないと思う。比較するときに仮想でも場所が決まっていれば出来るだろうが、それが無いと難しいということはある。

●山間部と臨海部に仮想の場所を想定すれば、メリット・デメリットについての資料への記述がしやすいのではないか。

●仮想の場所を設定すれば具体的に比較することは出来ると思う。

●明確にここを仮定するとせずに、一般論としてそれを頭に置きながら考えることは出来るだろう。

●市街地を通る場合は、運搬車は密閉型でないといけないだろう。

●運搬に関しては、振動はあまり影響ないだろうが、粉塵、騒音は気を付ける事が必要。

●造れるかどうかの交渉が第一なので、対応方法を出して交渉しないと大変だろう。

●具体的に説明しないといけない。まず、決まる前に仮想の場所を決めて、アセスや地形・地質を実施して、この場合はこうだということ交渉することになる。

●場所を決めないと本当の意味でのアセスは出来ないだろう。

●説明するときに、決まっていないから仮想の場所ということ。例えば、放流場所はこういう風で川も大きいし希釈もされるのでこうなるというのがある。だから、その辺を具体的に説明するときに問題があるとか、ないとかいう説明が出来るが、それで住民が良いですよと言った場合に初めてアセスは行える。

●前段階でどの辺までどうするかということだが、具体的に説明するには手持ちの資料がないと説明できない。通常は場所を決めて、アセスを行い、住民と話し合うということになる。

●基本的にアセスを行って引かかるような計画を出したのでは話にならないので、ここでキチンと考えて、ちゃんとした設備を出して、これなら絶対アセスは問題ないと説明できるプランを作ることが必要と思う。アセスを実施するという事は、相当なレベルなので、住民を説得できるプランをどう作るかということが重要と思う。

●アセスを行って、その後反対によって計画がなくなるということではなく、その前に地元住民の方へ造る物はこういう物ですと打診して、そのような内容なら良からうということでアセスを実施しないと、お金かけてアセスを行っても無駄になったことが今まで何件もあった。先に、住民と接触して、造る物は具体的にこういう物と分かってから説明して、それなら良いだろうという状況でアセスを行い、具体的にはこうですということを確認を取るというのが順番。

●やはり、住民はかなり厳しいことを言うだろうから、住民を説得できるプランを立案することが一番重要であると思う。それがないと成り立たないと思う。

●住民を説得できるプランをまず立案すると。その時に、ある程度想定しながら考えると、具体的に考えやすいということではないかと思う。山間部と臨海部の比較というのは、大切ということでもう少し中身の整理をしていく。

3. 埋立物について

配付資料に沿って事務局より説明の後、審議が行われた。

■委員からの主な質問、意見等

〈事務局〉

(委員より資料の表や図についての確認の質問があったことを受けて資料中のリサイクルセンターの処理フロー図等について説明) 一番上の不燃ごみ手選別ラインは、一般的な袋に入れて出される不燃ごみと考えている。搬入車からピットに落としてクレーンで不燃物ホッパに入れ、袋を破る破袋機を通した後に手で選別する。これは、スプレー缶等は破砕機で爆発する恐れがあるので、それを取り除くため。また、再生物として鍋ややかんなどの鉄アルミの単体物は、破砕せずに回収しようということで手選別を想定している。その残りを、コンベヤで不燃性粗大ごみホッパに合流させる計画。「不燃ごみ・不燃性粗大ごみライン」というのは、不燃と粗大の両方を破砕するもの。不燃性粗大ごみの搬入は、ロッカーや椅子などが不燃性ホッパへ投入され、その後不燃ごみの残りとは合流して、一次破砕・二次破砕して、機械処理で選別する。選別の過程の中で鉄とアルミを資源物として回収し、それ以外は不燃と可燃の選別を行ない、不燃バンカに入った物が最終処分される。実際には機械そのものはまだ動いていないので、計画上の想定の数値でリサイクルセンターの計画を進めている。(本来分別されている) 乾電池等が

	<p>混入して破碎されることにより、重金属等が混入されることは想定される。これを想定して、処分場の水処理設備についても重金属等にも対応できる処理ラインを考えて行く必要はあると思っている。</p> <p>4. 環境審議会への中間報告結果について</p> <p>配付資料に沿って事務局より説明の後、審議が行われた。</p> <p>■委員からの主な質問、意見等</p> <p>●閉鎖・廃止及び跡地利用という項目が必要ではないか。閉鎖と廃止は基準があるので、それに乗っ取ってやらないといけないという記述で良いだろう。跡地利用については、表現は難しいかもしれないが、地域住民の意見を十分尊重する等あったら良いのではないかと思う。</p> <p>●跡地利用は場所によって色々な意見があるだろうから具体的には難しいだろう。</p> <p>〈事務局〉</p> <p>閉鎖・廃止及び跡地利用については項目を追加させていただく。</p> <p>●最終答申案の中の不適物の埋立て排除について、排除した物がどれだけあったかというデータをおもてに出すかが大事と思う。市民に更にいろんな事をやって貰うためには、実際に不適物が入っていたということを知らせることも大事であると思う。</p> <p>●最終答申に書くかどうかだが、市報などでPRを継続することも大事。市民が排出した物を処理するわけなので、このように処理しますとPRすることも必要。</p> <p>●PRしても問題が起こった場合に、どういう問題が起こったかということをおもてに出すということが大事。PRと共に問題についても出しながらやっていくことが重要だろう。</p> <p>●これまでの審議を踏まえたうえで、事務局と部会長で最終報告案を調整して審議会へ提出したいと思う。委員の皆様には最終報告申案を送付して確認をお願いしたい。今後は、最終報告を受け、山口市環境審議会が開催され、答申案について協議される予定になっている。その審議を踏まえて、環境審議会から市長へ答申されることになっている。</p> <p>〈事務局〉</p> <p>最終報告については、今日の協議内容を追加して審議会へ提出させていただく。今後ともご支援を賜りたい。御意見があれば、是非言っただき、対応したいと思う。</p>
会議資料	<p>1. 第3回山口市環境審議会廃棄物埋立処理研究部会次第及び席次</p> <p>2. 第3回山口市環境審議会廃棄物埋立処理研究部会配付資料</p>
問い合わせ先	<p>環境部 環境保全課 環境企画担当</p> <p>TEL 083-941-2180</p>